

**令和5年 ICTビジネス高度化支援事業
安心セキュリティ！独自ChatGPTで
採用の悩み解消と効率化**

会社紹介・実績

代表の山里が個人営業時代2000年よりwebシステム開発、
県内webメディア事業「ごーやーどっとネット」(300万pv/月)を立ち上げ、2005年
に法人設立。

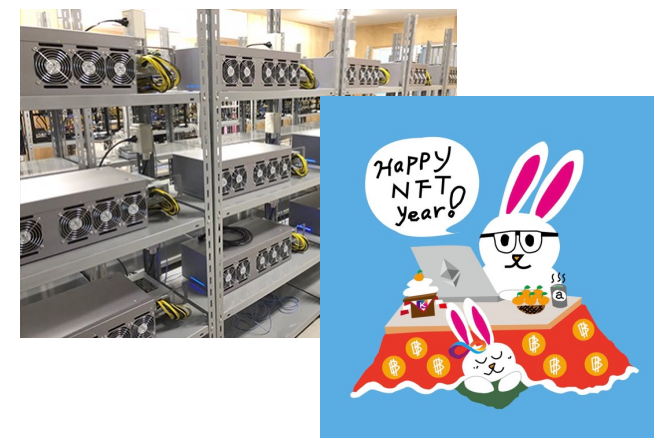
2002年にネットショップ事業を開始、沖縄県内でもいち早く「自社開発の県産品」
のネット販売を開始したことにより、複数回全国メディアにも取り上げられた。

2016年までウェブ・アプリソリューション技術を研究・開発・販売をおこなう。

2017年に、既存のWeb2時代からWeb3時代への変化を感じ、ブロックチェーン開
発事業を開始、国内でもいち早く暗号資産マイニングファームを設立(県内)。

2018年より暗号資産システムトレード及び2019年よりDeFi(分散型金融)や
スマートコントラクト研究開発と運用を開始。

2022年カーボクレジットトークン売買プラットフォームのプロトタイプを開発。
2023年1月、自社ナレッジ共有の為chatGPTとGoogleSpaces連携システムを開発
。また、不動産NFTクラウドファンディングを構築開始。



事業の背景と動機、及び社会課題

令和元年12月から始まった新型コロナウイルス感染症拡大の影響から回復しつつある現在、沖縄は**深刻な人手不足に直面**している。特に人事部門では、人材確保の為に**業務量の増大に伴う負担が大きい**。

県内建設業の人事部門の業務内容の実例：

【イベント系】

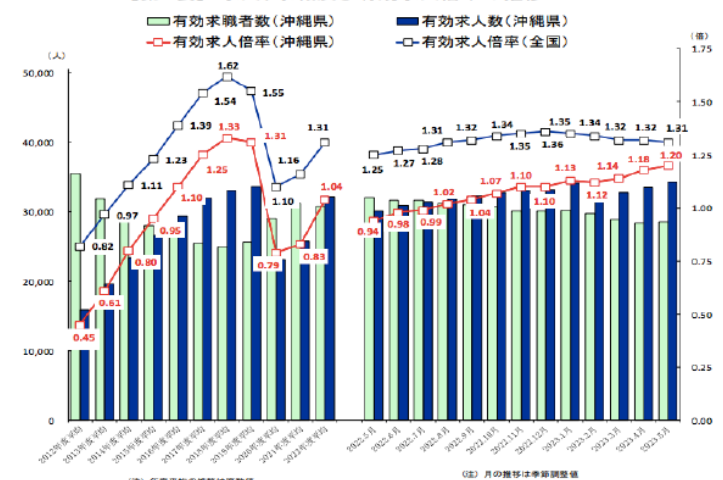
- ・企業説明会の資料作成
- ・定期的に行う業務に関する新規顧客獲得のセミナーに関する資料作成

【情報発信系】

- ・週3回のSNS運用(Twitter、Instagram、ブログ)などのコラム、文章の作成
- ・定期的な人材採用専用サイトのコンテンツ更新

人事部門とあるが、実際には他の業務をこなしながら行う事が多く、業務の負担が大きいのが現状である。人手不足の今、早急に**生産性を向上させ業務効率化を図る**ことが求められている。

【第1表】 求人、求職及び有効求人倍率の推移



(出典：厚生労働省 沖縄労働局)

解決手段

【生成系AIサービスの活用】

これらの多くの課題業務を生成系AIサービス「ChatGPT」に任せることで、人間が行っていた0から1を作り出す業務をAIが代行することができる。



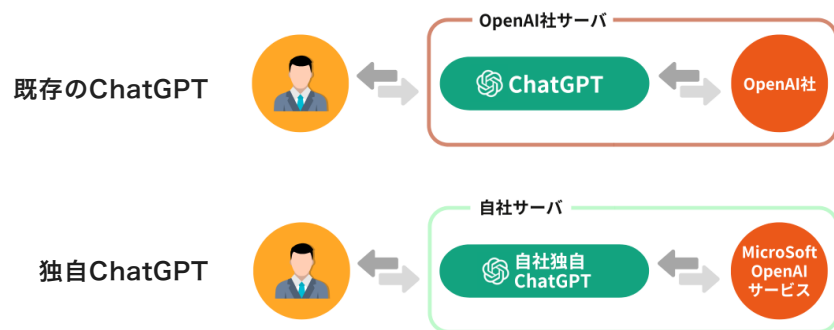
「ChatGPT」により生成された文章等は、**完成度80%ほどのものが瞬時に作成**され、人間はその文章等に微修正を加え完成させる。この工程で、**人間の業務時間は大幅に短縮**される。

それにより人間は、**より高度な創造的なタスクに注力**することが可能になる。

また、定型的な業務から解放され、人材採用の新しいアイデアを生み出したり、求職者との信頼や会社のアピールをするための時間を増やすことができる。

実証内容(開発内容)

①既存のChatGPTの問題点（セキュリティリスク）を独自ChatGPTを構築により解決



- OpenAI社でAIの学習データに使われる可能性や流出リスクがある。
- 過去にサムソンやAMAZONの社内機密情報がchatGPTを通して流出している。

- Microsoft AzureのOpenAIサービスを利用することにより入力されたデータはOpenAI社に流出することはない。
- 顧客情報や機密情報の流出のリスク無くChatGPTを利用できる。
- 独自ChatGPTへのログインアカウント情報を自社でコントロールでき、退社した社員へのログイン遮断など、情報流出リスクを抑えることができる。
- OpenAIサービスとの連携はchatインターフェイスを独自で構築する必要がある。

②プロンプトのテンプレートを協力企業と共同で開発

本プロジェクトの実証活動において、建設業、不動産業、通信販売業と調整済みであり、連携をおこなっていく。

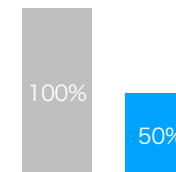
プロンプトとは、ChatGPTに対して命令や質問する文章の事で、この文章によってchatGPTが生成する回答が大きく変わる。
協力企業と共同で業務で使用する実用的なプロンプトを開発していく。

また、より使いやすいUI・UXも同時にヒアリングしながら改修していきながら日々生成系AIの進化のスピードに合わせて研究開発していく。

得られる結果

①【イベント】業務の効率化(50%の時間で資料作成ができるようにする)のChatGPT導入前後での業務時間を測った結果

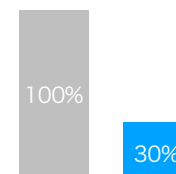
- ・企業説明会の資料作成
- ・定期的に開催する業務に関する新規顧客獲得のセミナーに関する資料作成



【イベント系】業務の効率化

②【情報発信系】業務の効率化(30%の時間で資料作成ができるようにする)のChatGPT導入前後での業務時間を測った結果

- ・週3回のSNS運用(Twitter、Instagram、ブログ)などのコラム、文章の作成
- ・定期的な人材採用専用サイトのコンテンツ更新



【情報発信系】業務の効率化

③ChatGPT導入により生産性向上による他業務への貢献内容をヒアリング

- ・定型的な業務から解放され、より高度な創造的なタスクに注力する事が可能

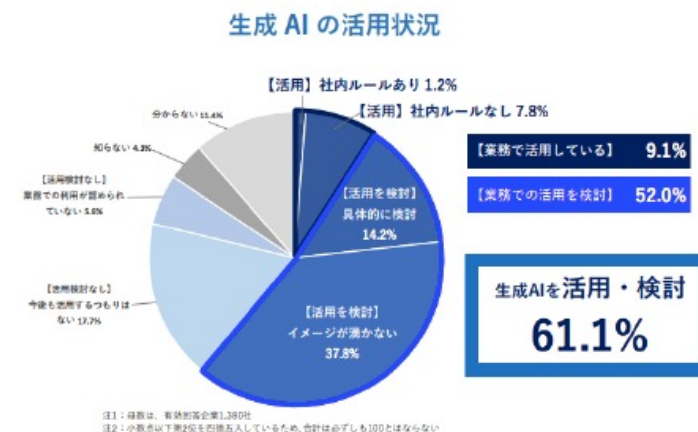
④社員の定着率改善や従業員の労働満足度の向上(ChatGPT導入前後でアンケートをとる)

事業化の展望

生成AIの企業における活用状況のアンケートによると、

「すでに業務で活用している」・・・9.1%
 「業務での活用を検討している」・・・52%

6割以上の企業が生成AIに対して前向きにとらえている
 社会課題」「ニーズ」「生成AIのポテンシャル」を踏まえ、このタイミングでいち早く事業を立ち上げる
 ことで、社会問題を解決に導き、県内企業から必要とされるビジネスになると確信。



(出典：TEIKOKU DATABANK, LTD.)

今後の課題

- データプライバシー・セキュリティ
AI利用におけるユーザーデータの取り扱いについての適切なガイドラインと保護策の確立。
- リソースとコスト
コスト効率的なAIソリューションの提供。
- 文化的なハードル
文化的な観点からの理解と受け入れを克服するための啓蒙活動や教育。
- 人間の仕事への影響
AIが人間の職業や業務を置き換えることに対する懸念もあり、社会全体でこの移行をどのように管理し、再教育や職業訓練を提供するかが課題。